

みかんはどうやってつくるのかな？

みかんづくりの作業は、どのようなものなのでしょうか？

おいしいみかんをさいばいしている、中澤^{なかざわ}さんに聞いてみましょう。



わたしの農園では、
このようにして
みかんをつくって
います。

みかんは、一年じゅうあたたかく、
南向きで水はけのよい斜面で多くつく
られています。

▲みかん農家の中澤さん



▲みかんのだんだん畑。

みかんづくりの一年

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	せいし てい 整枝・せん定 (いらない枝を切る)				あらてき か 粗摘果 (多すぎる実をとる)			しゅうかく 収穫 (極早生→早生→ふつう)			
	土の改良 (みかんさいばいに てき 適した土にする)		てき か 摘らい・摘花 (多すぎるつぼみやつきすぎた花をとる)		仕上げ摘果						
	ひりょう 肥料をやる				肥料をやる				肥料をやる		
		じょそう 除草 (園の雑草をとる)				除草		除草			
						木に水をやる					



2～3月 **せん定**

今年、芽がでた枝には、次の年に実がなります。全体のバランスを考えながら、せん定をします。



春がきて芽がでる前に、いらない枝を切って木を整える「せん定」という作業をします。

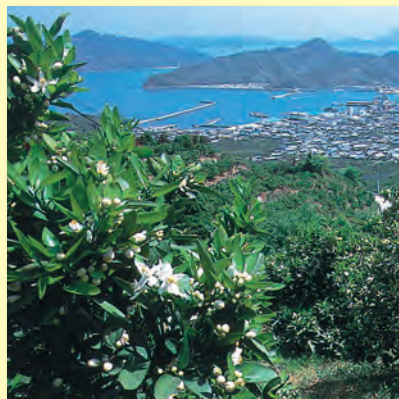
こうすると、日光が葉にまんべんなくあたります。また、花の数が一定して、毎年同じように実をつけることができます。



ずいぶん手間がかかるんだなあ。

5月 **開花**

5月になると、白いみかんの花がいっせいにさきます。花が散ったあとに、みかんの実がなります。

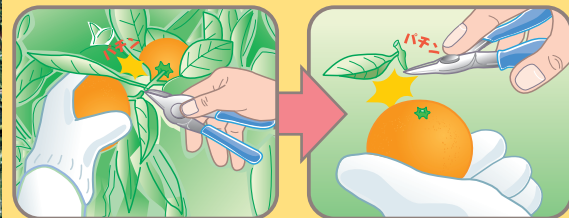


10～12月 **収穫**

山の斜面でたっぷりと日光をあびたみかんが、あまくておいしくなりました。いよいよ収穫です。



収穫は、「2度切り」という方法でします。最初に実のついた小枝ごと切り、次に、へたの上で小枝を切り取ります。こうすると、出荷までの作業でみかんどうしがぶつかりあっても、きずがつきません。



6～10月 **摘果**

おいしいみかんをつくるために、実った実のうち、きずがついたりして、品質が悪くなりやすいものをつみ取ります。この作業は「摘果」といい、収穫までに数回くり返されます。



りんごはどうやってつくるのかな？

わたしたちが食べているりんごは、どのようにつくられているのでしょうか？
おいしいりんごをさいばいしている、小平さんこへいさんに聞いてみましょう。



▲りんご農家の小平さん

わたしの
果樹園かじゅえんでは、このようにして
りんごをつくっています。

りんごのさいばいは、すずしくて雨
が少ない土地が向いています。また、
一日の気温差が大きいほど、おいしい
りんごができます。



▲ひろびろとしたりんご畑。

